



<朝日新聞 - 私の視点>

2008年4月30日掲載(朝刊)。

<Asahi News Paper - My Point of View>

Published on April 30th, 2008 (Morning Edition)

私の視点

siten@asahi.com

国連開発計画(UNDP)ルワンダ事務所
環境専門員
三戸 俊和



◆アフリカ支援 持続可能な開発に投資を

アフリカには、残念ながら戦後争や飢饉、貧困、疫病など悲劇的なイメージがある。だが、私はルワンダでの経験から、その認識に違和感を覚える。持続可能な発展の実現には、対象の国や地域を別物に見つめて、最善策を個々に講じる必要がある。大事な視点は「投資」だ。例えば、ルワンダは二十数年で劇的な変化を遂げた。この国は94年に起きた悲惨な情状で知られるが、現在の様相は90年代とは大きく異なる。国内の紛争はほぼ解消し、アフリカで最も安

全で平和な国の一つになった。政治の安定化は、深く傷ついた盧旺ダの記憶から、平和を切に願う人々の気持ちに支えられているようにだ。

この国でいま、急成長を遂げているのが観光業だ。国内総生産(GDP)が20億米、超の小さな国ながら観光収入は300万米、規模で、3番目の産業になっている。その目玉がマウンテンゴリラを見に行くエコツアー。

野生のマウンテンゴリラは現在世界に約700頭いるとされるが、そのすべてがルワンダ北西部の国立公園を含む保護地域に生息している。ユニークな生態系を保護し、観光客に見学できる。一般ツアー客が見学できるゴリラの家族は7ファミリーで、それぞれツアー客8人まで

を1グループとして訪問が許されるが、その対面時間も最長で1日1時間に制限されている。このゴリラツアーもいざしれど和状態になることが予想される。しかし、「千の丘の国」と形容されるルワンダの美しい丘陵地帯は風光明媚な地形は魅力的だ。オーガニック栽培のコーヒーや茶、薬材など土産品、勇壮な太鼓の演奏や伝統舞踏、旅人に友好的な住民が多いことなども相まって、さまざまな高付加価値・環境配慮型ツアーの潜在性は高い。

スムの基盤整備も促されよう。人の交流が膨らめば他の産業への波及効果も期待できる。新たな投資の道も開かれるだろう。持続可能な開発を実現するには、その国の経済活動が健全に発展し続ける必要がある。内陸の途上国であるルワンダで、ツアーリズムが漸進産業となれば、貧困脱出に向けた先進事例になり得る。単なる一方的な援助依存から抜け出す一手段として、旅を通じた投資によって双方が利益を得られるような関係を築けないだろうか。

これまでもとどろく旅行者の大半は欧米からで、遠い日本からはツアー客はまだまだ少ない。しかし、わずかながらでも日本人客が増え旅行者のニーズが明らかになれば、ルワンダ側のツアー

遠いアフリカの窮状を日本でも受け、政府や国際機関などを通じた援助に期待を託さずとも、自ら旅に出ることで途上国への貢献は可能だと、私は思う。

characters of local people who are friendly to foreign visitors, we can expect high potentials of developing highly value-added and environmentally friendly tourism.◆◆◆◆◆So far, most of the visitors are from western countries and we see only a few tourists coming from Japan, which is quite far from Rwanda. However, if the number of Japanese tourists increases gradually and their demands become clearer, this would encourage the Rwandan side to improve their tourism bases. We can expect that human interaction will enhance other business development. New investment will also be promoted.◆◆◆◆◆Sustainable development can be realized through healthy economic development of the country. When a landlocked and developing country like Rwanda can make the tourist industry as their key industry, it must become a leading case for poverty reduction. As one measure to get rid of one-sided dependence on aid, how about establishing a new relationship where we can expect mutual benefits from investment through travels?◆◆◆◆◆ Instead of being worried about difficult conditions in remote Africa from Japan and entrusting aid tasks to governments and international agencies, I believe that each individual can contribute to healthy development of developing countries by traveling and visiting the countries by ourselves.



<NHK BS - アフリカ支援をどうするのか? >

<http://www.nhk.or.jp/bsdebate/0806/voice.html>

<NHK BS - How should we aid Africa?>

<http://www.nhk.or.jp/bsdebate/0806/voice.html>

“Voice from Rwanda – Develop capacity of medical human resources for promoting investment”

<Abstract>

-Rwanda is a relatively small landlocked country located in the centre of Africa and almost along the equator.

- Many people might know this country as the country that faced 1994 genocide through movies such as the ‘Hotel Rwanda’.



- Despite this disastrous occurrence, Rwanda is experiencing a rapid economic growth.

- Current domestic security condition is one of the best in Africa.

- However, some people might even think that Rwanda is still under war. The precise information on this country should be shared and delivered in order to make aid activities effective.



- The followings are key facts to understand the present Rwanda:

- 1)Population density is one of the highest in Africa.
- 2)80 to 90% of people are living by subsistence farming and most of them do not have income opportunities.
- 3)Land area per person is not sufficient for subsistence agriculture and the government is trying to develop highly value-added industries such as eco-tourism and ICT.



- Therefore, investment for developing such industries is more important than traditional donor assistance.

- In this point, the challenge is that although the security condition is good, the living condition is still not satisfactory for foreign investors to stay long with their families (e.g. lack of high educational opportunities for their children, an incomplete medical care system, etc.).



- Specifically, insufficiency of the medical care level is critical.



- Japanese medical schools and institutes must consider to offer opportunities to young Rwandans of studying and mastering appropriate medical skills and practicing back in Rwanda.

- Japan is known as longevity of people. Japanese contribution to improving the medical care system in Rwanda can have a significant impact and give a chance for mutual development.

ルワンダからの声 – 投資促進のために医療の人材育成を



ルワンダはアフリカの中央部に位置する赤道直下の内陸国で、面積は四国の1.4倍程度しかありません。この国は、「ホテル・ルワンダ」などの映画を通じて、民族対立起因として1994年にジェノサイドが発生した国としてよく知られていると思います。80万人以上もの人々がわずか100日間の内戦で亡くなり、しかも身近なコミュニティのメンバーによって多くの殺戮がなされるといふ悲惨なものでした。

このような経験を経ながら、ルワンダは今急速な発展を遂げています。治安の良さは今ではアフリカ随一です。しかし、残念ながら多くの人にとって、ルワンダはまだ内戦の傷跡が残る、あるいはまたい場合は紛争下の国として認識されているでしょう。この国の現時点の情報がきちっと伝わること、それがルワンダに対する支援でまず大切な点です。

その上で、今のルワンダを理解するのに重要な情報は、1)人口密度がアフリカでも最も高い方に属すること(四国の約1.4倍の国土に1千万人近い人々が暮らしており、日本の人口密度に近い)、2)8~9割の国民が自給自足型の農民であり、まだ現金収入がほとんどないこと、その上で、3)今後の人口増加を考慮すると、一人当たりに配分できる農地の面積は自給自足に十分ではなく、今後、農業以外の産業で人々を養っていく必要があること、でしょう。この点、内陸国であらゆる輸送費が高つくという課題も加わって、政府ではエコ・ツーリズムや、IT産業などの高付加価値産業に国の経済発展の活路を見出そうとしています。

したがってルワンダに関して言えば、現在求められているのは奨学金ではなく、高付加価値産業の育成に貢献する継続的な投資です。しかしこの点、治安情報などの投資判断に関する基礎的な情報が日本に十分届いていないことも問題ではありますが、そもそも日本の投資家が安心して投資できる環境そのものが、一部でまだ整っていないという点が大きな課題です。先述のとおり、治安の点では問題がないと言える状態なのですが、海外からの投資家が長期にルワンダに滞在する場合、例えば連れてくる子供に十分教育を与えられない、あるいは、何かあったときの医療体制が不十分、といった点が海外投資の障壁となっています。

特に、不十分な医療体制は問題で、ルワンダで大きな怪我や病気になった場合、安心して治療を受けるには、救急飛行機に乗って南アなどに行かなくてはならないのが現状です。人口1千万人足らずの小国ということもあり、設備の不十分さに加えて、医師の実地経験が圧倒的に不足しています。

そのため、例えば日本の医大や医療機関がルワンダの医師の卵を受け入れ、彼らを一人前の医師に育てた上でルワンダに送り返すことができれば、ルワンダの人々の医療事情が改善するばかりでなく、海外投資を促進する環境が大いに改善されると考えます。実は日本に対する印象はルワンダで大変よく、「テクノロジーの国」として、できれば日本で勉強したいという思いを若者から聞きます。しかし一方で、「日本で勉強するのはとても難しい(特に入国審査の点で)」という認識も共有されているのが残念な現状です。結果、「医療に関する人材育成を日本に頼みたい」という声はなかなか聞こえてきませんが、日本からそのような打診をすれば、大いに歓迎される可能性が大きいと思います。「人を育てる」というのはなかなか時間のかかることですが、長寿高齢社会を誇る日本が、ルワンダ、さらにはアフリカの医療事情の改善に貢献できればその意義は大いに大きいでしょう。日本の産業がアフリカに進出する機会をつくり、日本の発展にも寄与するという点でも、有効と考えます。



Rwanda is known as the Land of a thousand hills and actually covered with many hills.

ルワンダは「千の丘の国(Land of a thousand hills)」と呼ばれており、丘陵地がとても多い。



Kigali, capital city of Rwanda. The population of Kigali is around one million.

首都キガリの街並み。人口100万人程度。